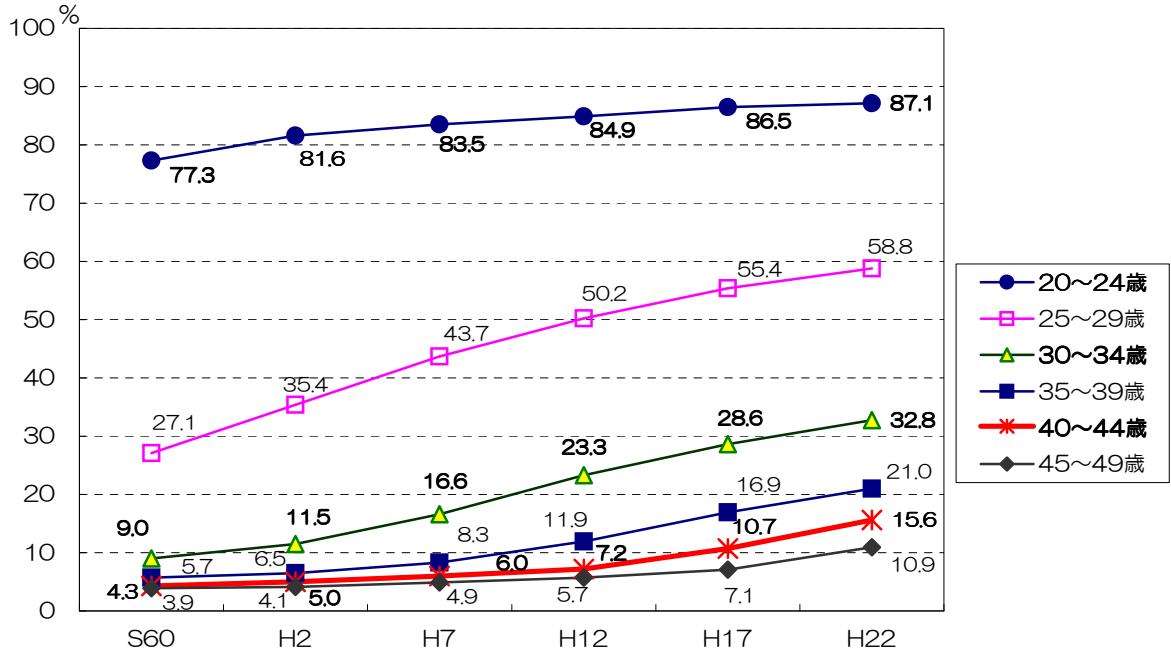


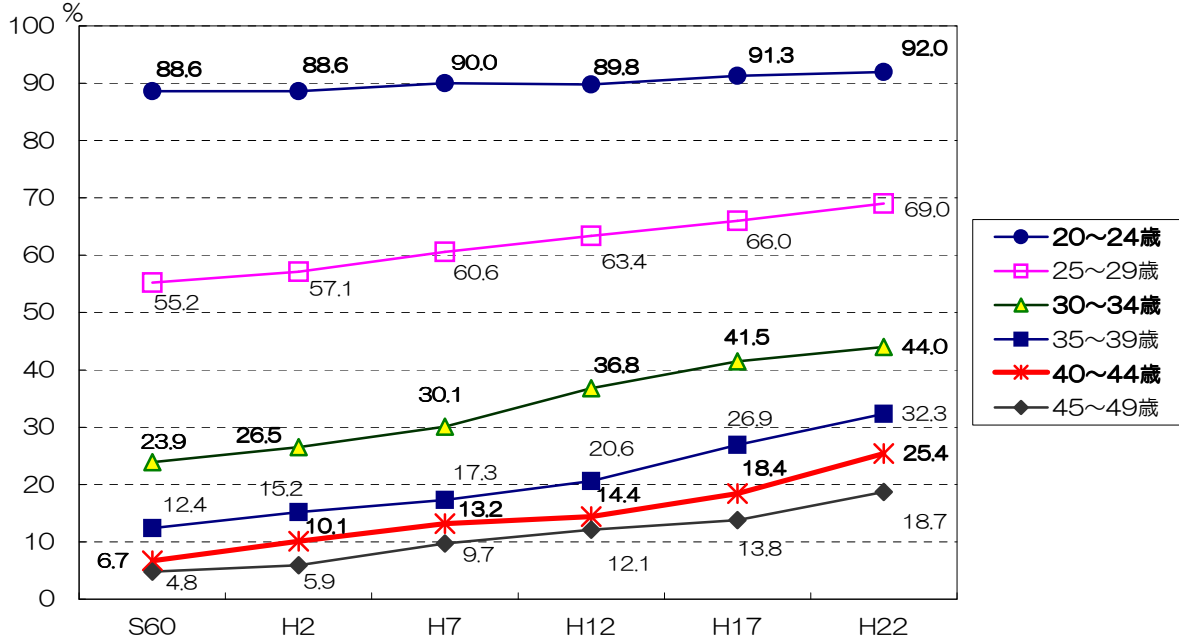
2 家族・家庭、生活と意識

(1) 県の未婚率の推移

【女性】



【男性】

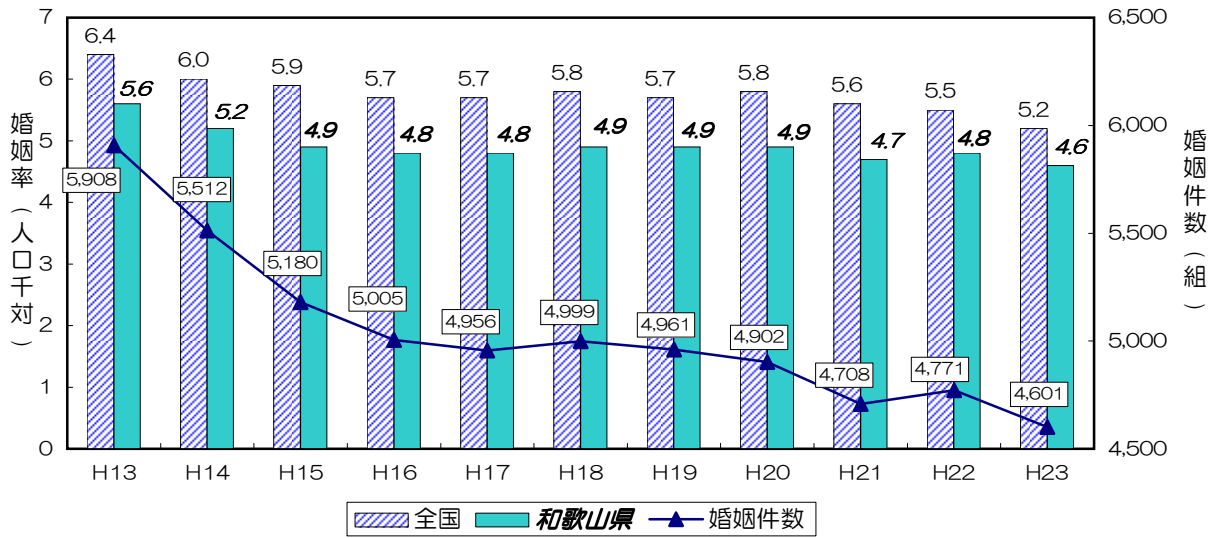


資料：総務省「国勢調査」H22年

★ポイント★

- ◇ 昭和60年から平成22年の未婚率は男女とも増加傾向にあり、男性と女性を比べると男性の方が比率は高く、平成22年の未婚率は35～39歳で男女差が11.3ポイントあり、他の年代よりも差が大きくなっている。
- ◇ 未婚率の増加状況は、女性では昭和60年から平成22年の間で25～29歳の未婚率が31.7ポイント増加と最も高く、男性は30～34歳で20.1ポイントの増加となっている。

(2) 県の婚姻率の推移

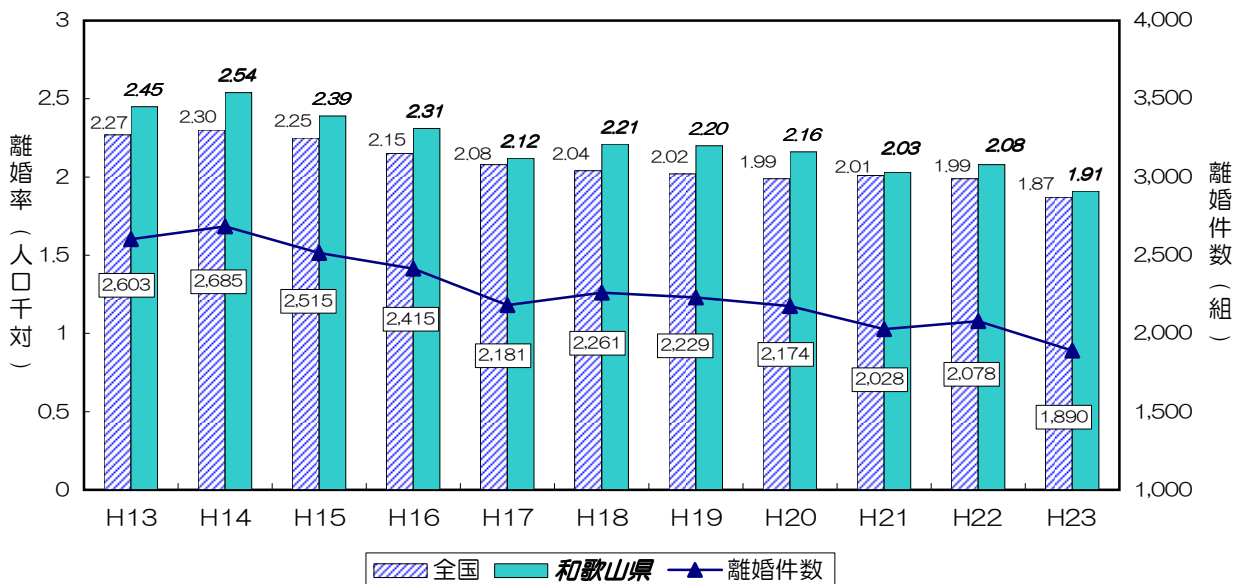


資料：厚生労働省「人口動態統計」H23年

★ポイント★

- ◇ 平成23年の全国の婚姻率は5.2で平成22年よりも0.3ポイント減少し、和歌山県においても4.6となり0.2ポイント減少した。
- ◇ 平成23年の和歌山県の婚姻件数は4,601で、平成22年と比較すると170組減少した。

(3) 県の離婚率の推移

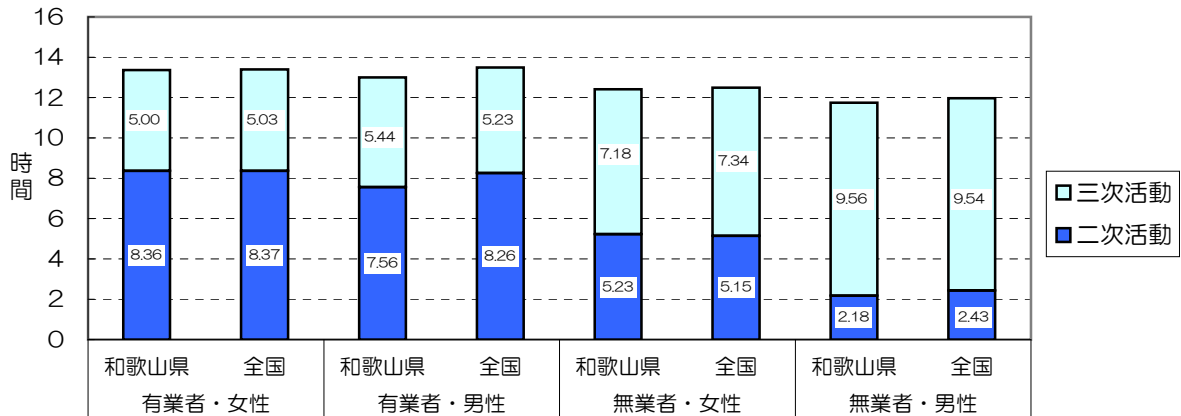


資料：厚生労働省「人口動態統計」H23年

★ポイント★

- ◇ 平成23年の全国の離婚率は1.87で前年よりも0.12ポイント減少し、和歌山県においても1.91となり前年よりも0.17ポイント減少したが、全国の離婚率よりも0.04ポイント高くなっている。
- ◇ 和歌山県の離婚件数は平成14年をピークに減少傾向にあり、平成23年は前年よりも188組減少した。

(4) 県の男女別生活時間(行動別週全体平均時間)



- ※ 二次活動: 仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
- ※ 三次活動: 各人が自由に使える時間における活動
- ※ 有業者: ふだんの状態として、収入を目的とした仕事を続けている者
家族従事者は、無給であってもふだん継続して仕事をしていれば有業者としている。
また、育児休業や介護休業などで仕事を一時的に休んでいる場合は有業者に、はっきり決められない場合は、おおむね1年間に30日以上仕事をしている場合を「仕事をしている人」としている。
- ※ 無業者: 有業者以外の者

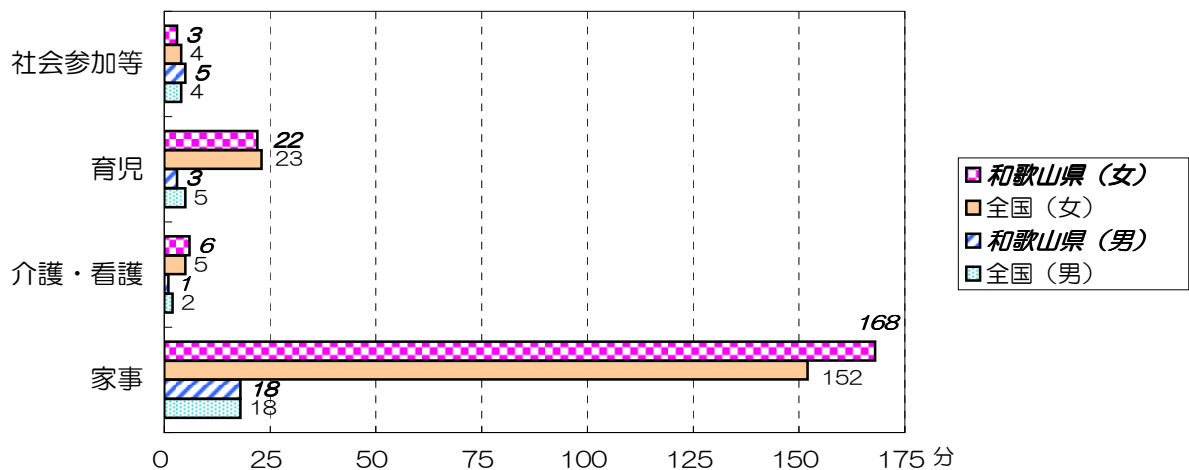
資料: 総務省「社会生活統計指標～都道府県の指標～2013」

※数値は2011年値

★ポイント★

- ◇ 全国、和歌山県ともに「有業者・男性」に比べ、「有業者・女性」の方が二次活動の時間は多く三次活動の時間は少ない。
- ◇ 全国、和歌山県ともに「無業者・男性」と「無業者・女性」についても同様の傾向があるが、それぞれの活動における男女の時間の差が、有業者より大きい。

(5) 行動の種類別総平均時間



※ 時間は、土日を含む週7日間における1日当たり平均生活時間(週全体)

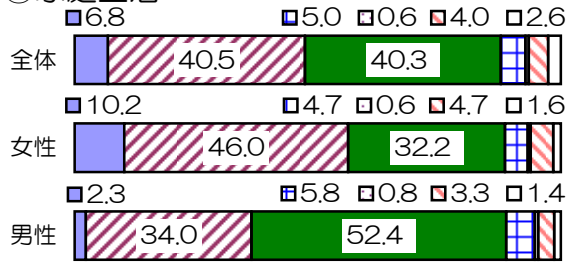
資料: 総務省「社会生活基本調査」H23年

★ポイント★

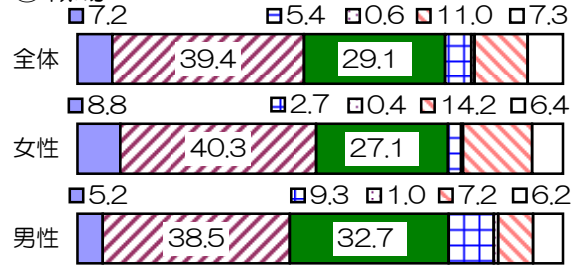
- ◇ 全国に比べて、和歌山県の女性は、家事にかかる時間が多くなっている。
- ◇ 育児にかかる時間は、男女ともに和歌山県より全国の方が多くなっている。

(6) 男女の地位の平等感

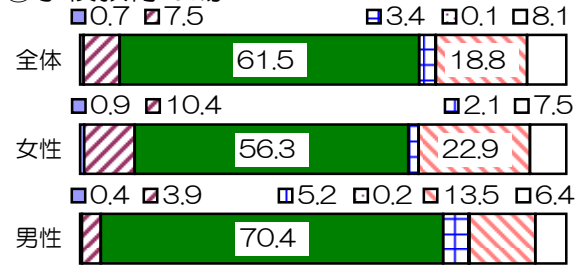
①家庭生活



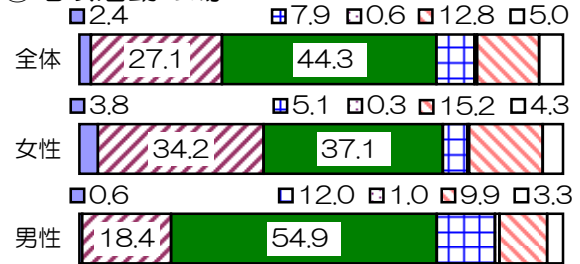
②職場



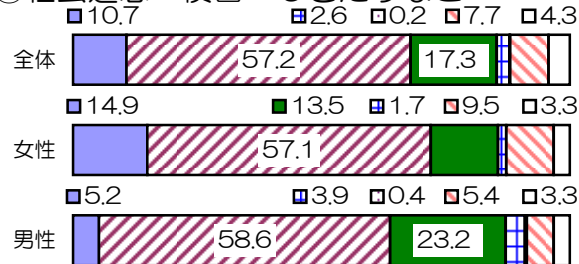
③学校教育の場



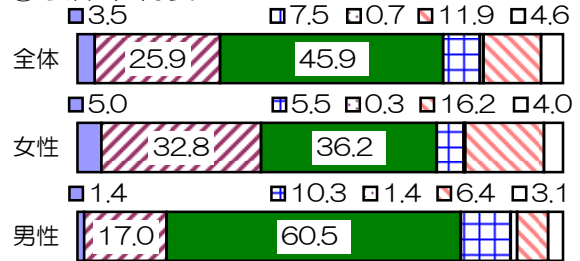
④地域活動の場



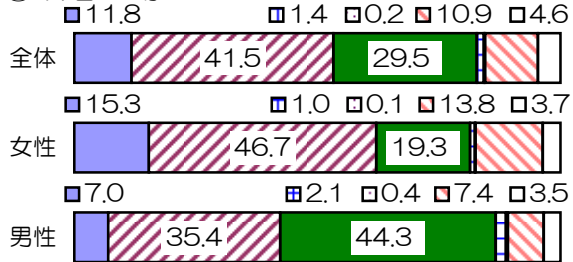
⑤社会通念・慣習・しきたりなど



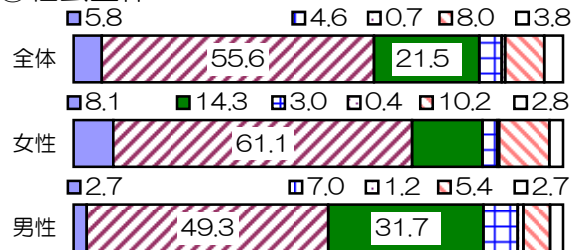
⑥法律や制度



⑦政治の場

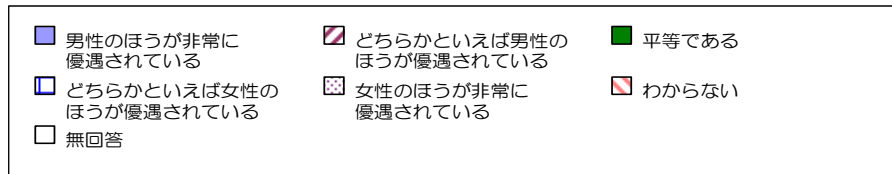


⑧社会全体



0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%



資料：和歌山県「男女共同参画に関する県民意識調査」H22年度

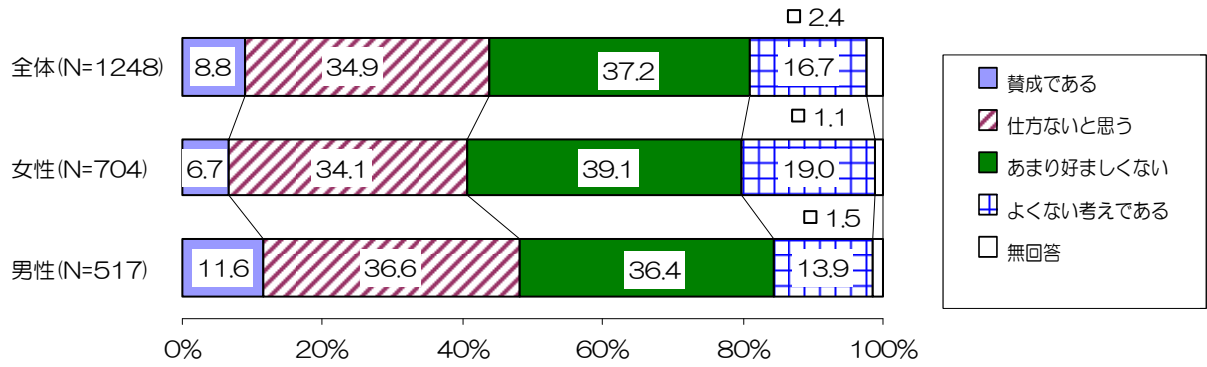
★ポイント★

- ◇ 「⑤社会通念・慣習・しきたりなど」、「⑦政治の場」、「⑧社会全体」で『男性優遇』と感じている傾向が強い。
- ◇ 全ての項目で『男性優遇』と感じているのは女性の方が割合は高く、「平等である」と感じているのは男性の方が割合は高い。

※『男性優遇』は「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせたもの

※百分比(%)は、少数第2位を四捨五入し少数第1位まで表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計が100%にならないことがある。

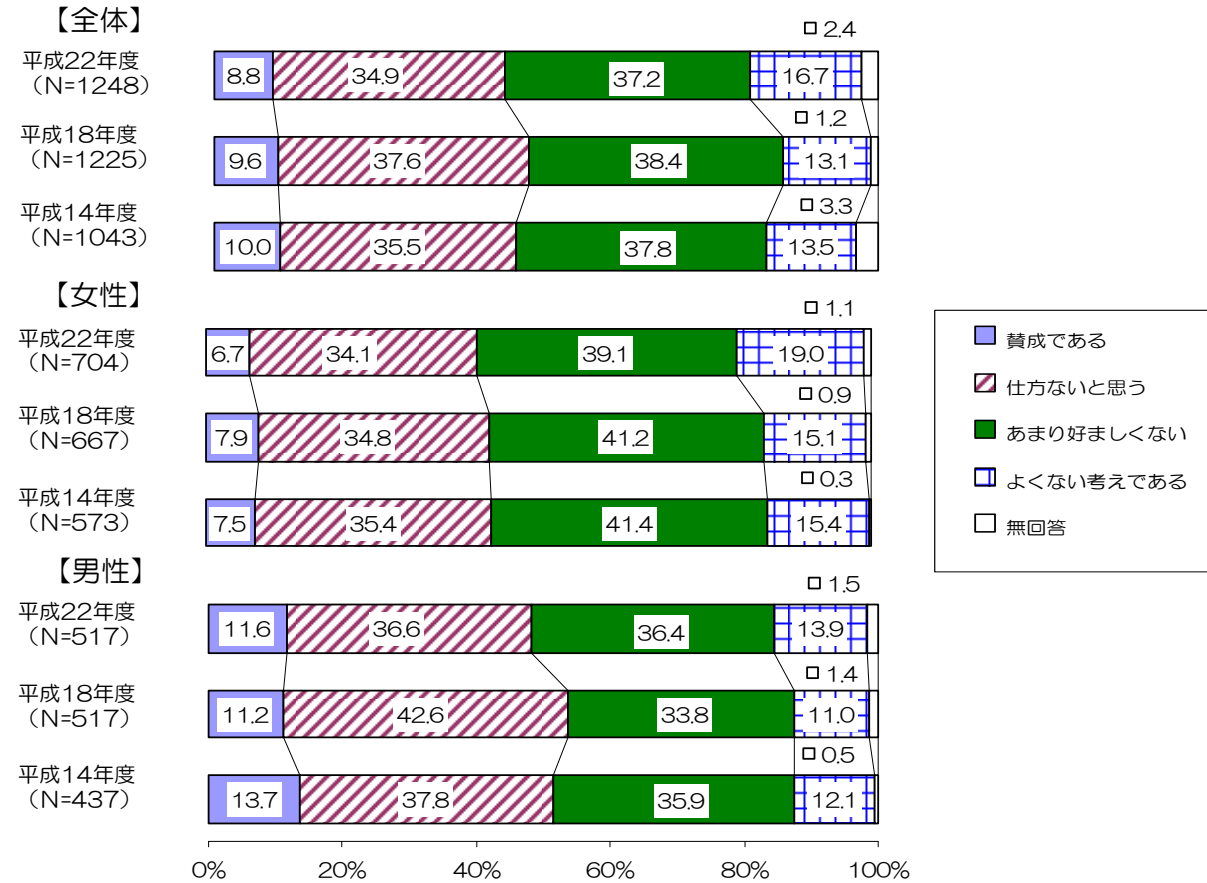
(7) 男女の決められた役割分担（固定的な性別役割分担）についての考え



★ポイント★

- ◇ 「男は仕事、女は家庭」など、性別によって男女の役割を決めるような考え方について、男女ともに「あまり好ましくない」、「よくない考えである」を合わせた割合が5割以上となっている。
- ◇ 女性より男性の方が、性別によって男女の役割を決めるような考え方について、「賛成である」、「仕方ないと思う」を合わせた割合が高くなっている。

◆ 過去との比較



※百分比(%)は、少数第2位を四捨五入し少数第1位まで表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計が100%にならないことがある。

資料：和歌山県「男女共同参画に関する県民意識調査」H22年度

★ポイント★

- ◇ 「男は仕事、女は家庭」など、性別によって男女の役割を決めるような考え方について、前回調査(H18年度調査)と比較すると、男女ともに「賛成である」、「仕方ないと思う」を合わせた割合が減少し、「あまり好ましくない」、「よくない考えである」を合わせた割合が増加している。
- ◇ 男女ともに「よくない考えである」という意見が増加している。